

| | | | | | | | |
|---|--|---|--------|------|-----|--------------------|-----|
| 科目コード | E2123 | 科目名 | 保育内容総論 | | | | |
| 履修区分 | 教育課程表参照 | 開講期 | 2年後期 | 授業回数 | 15回 | 単位数 | 2単位 |
| 担当者 | 深澤悦子 | | | | | | |
| 授業の概要 | 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育に示された教育・保育の目標・基本と乳児保育の「ねらい・内容」の3視点、1歳以上児保育の5領域の「ねらい・内容」とを関連づけて理解し、各章のつながりを読み取り、教育・保育の全体的な構造を事例に学びながら理解する。 | | | | | | |
| DPとの関連 | 平和を希求し、その教育に努め、幸せな人生を創造しようとする力を身につける | | | | | | |
| | 人間愛のもと、ケアすることの意義を教育・保育の専門性において学び、専門的な知識・技術との統合を図る力を身につける | | | | | | |
| | 修得した専門的な知識・技術を活用し、教育者・保育者として実践する力を身につける | | | | | | |
| | 教育・保育者として、子どもの育ちや学びに関わる問題について時代の変化を見通して研究し、新たな価値の創造を図る力を身につける | | | | | | |
| | 社会との連携を図り、人々の教育的・保育的ニーズや社会的ニーズに応えることができる力 | | | | | | |
| DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）＝卒業までに身に付けるべき資質・能力 | | | | | | | |
| 到達目標 | 1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育に示された教育・保育の目標・基本、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と乳児保育の「ねらい・内容」の3視点、1歳以上児保育の5領域の「ねらい・内容」とを関連づけて理解する。 2. 各章のつながりを読み取り、全体構造を実践事例に学びながら理解する。 3. 幼児の発達と生活に即して、「主体的・対話的で深い学び」が実現する過程をふまえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する（子ども理解に基づく計画・実践・記録・省察・評価・改善）方法を学ぶ。 4. 教材を工夫し、保育の構想に活用し、指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して保育を改善する視点を学ぶ。 | | | | | | |
| 履修上の注意事項 | ・スマートフォンは、検索等で活用する場合がありますが、それ以外は、マナーモードにするか電源を切り、カバンの中に入れておきます。 ・講義は、資料や講話を書き留めながら、ノートにまとめていきましょう。 ・疑問・わからないことは、必ず質問しましょう。 | | | | | | |
| 授業計画 | 回数 | 講義内容【担当教員】 | | | | 事前・事後学修 | |
| | 1 | 保育内容総論とは | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 2 | 幼稚園教育要領における幼稚園教育の目標・基本、5領域のねらい・内容と全体構造 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 3 | 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育における教育・保育の目標・基本、乳児保育の「ねらい・内容」の3視点、1歳以上児の5領域の「ねらい・内容」と全体構造 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 4 | 「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「主体的・対話的で深い学び」 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 5 | 保育内容の歴史の変遷と社会背景、子どもの発達・生活に即した保育内容の基本的な考え方 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 6 | 養護と教育が一体的に展開する保育 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 7 | 子どもの主体性を尊重し、環境を通して行う保育と指導上の留意点 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 8 | 発達に即したあそびや生活による総合的な保育と指導上の留意点 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 9 | 個と集団の発達をふまえた保育と指導上の留意点 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 10 | 模擬保育と省察および改善（1） | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 11 | 模擬保育と省察および改善（2） | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 12 | 5歳児クラスの協同的な取り組み 実践記録の分析 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 13 | 家庭や地域、小学校との連携をふまえた教育・保育 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 14 | 長時間保育、特別な配慮を要する子どもの教育・保育、多文化共生の教育・保育 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| | 15 | これからの時代の教育・保育実践の課題 | | | | 適宜、提示した学習内容に従って行う。 | |
| 成績評価方法 | 教材研究および指導案の作成30%、ノート10%、期末試験60% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。 | | | | | | |
| 教科書 | 書名・著者（出版社） | | | | | ISBNコード | |
| | 幼稚園教育要領解説・文部科学省（フレーベル館） | | | | | 978-4-577-81447-5 | |
| 参考書 | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 教員からのメッセージ | 具体的な子どもの姿をイメージしながら、教材研究や模擬保育に取り組みましょう。 | | | | | | |
| 教員との連絡方法 | 担当教員と確認してください。 | | | | | | |
| 実務経験のある教員 | | | | | | | |